

平成26年度第7回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成26年11月25日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,
山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事

(1) 第2期中期計画（素案）について

- 市立病院と京北病院のネットワーク環境の一元化とはどのようなものを想定しているか。
 - ・ 平成26年3月理事会において基幹的部分の契約について承認いただいた。現在具体的な部門システムの調整業務等の協議を行っており、平成27年5月稼働予定である。
 - ・ 新たに京北病院に電子カルテシステムを導入し、より一体的な運営を目指す。
- 教育研修センターは具体的にどのようなものか。
 - ・ 各部署・部門で実施している研修を一元化し、計画的な研修体制を構築することを目的として設置する。
- SPCとの関係において、SPCの自己点検と法人のモニタリングとはどのような取組みをしているのか。
 - ・ SPC内部によるセルフモニタリング評価結果の報告及び病院による各部署からSPC業務に対する意見聴取の結果を踏まえて、モニタリング小委員会にて毎月協議・評価を行っている。
 - ・ SPC側と病院側の評価基準が合致していないことが課題であり、評価基準の統一や定量的な評価基準の設定等に取り組んでいるところである。
- 手術支援ロボット、放射線治療装置、心臓・血管病センター、脳卒中センターの現在と今後の見通しはどうか。
 - ・ 手術支援ロボット（ダヴィンチ）は年間100例ペースである。約80%が泌尿器科領域の前立腺及び腎部分切除、約15%が消化器外科領域の胃がん手術、その他は呼吸器外科領域の縦隔腫瘍等である。
 - ・ リニアックは2台体制となり、今後さらに患者数を増やしていく必要がある。
 - ・ 心臓・血管病センターは、今後の患者動向を見据え、末梢血管の治療を進めている。
 - ・ 脳卒中センターは、3D病棟へHCUを開設する等、さらに充実させる。
 - ・ 重症救急を中心とした診療、がん診療連携拠点病院としてのがん診療、大規模災害時に対応できる体制が中心となる。
- 介護保険法の改正により、地域包括ケアにおいて、医療側と介護側との連携（カンファレンス）の位置づけが厳しく設定される。適切な援助がなされるよう職員への研修体制が必要である。
 - ・ 市立病院では地域包括ケアに対する職員への意識づけはまだ十分でないと感じている。
 - ・ 発病から在宅復帰までを役割分担し、トータルマネジメントができる体制を構築しなければならない。

- ・ 入院時から退院を想定した関わりを持つ退院支援のリンクナースを配置し、人材育成を行っている。
- ・ 京北病院としては、限定された地域であり、医療や介護・福祉サービスを提供している事業者との連携関係を強める取組を進める。
- 数値目標の目標値の策定において、看護師や医師等を増員する方針があるのか。
 - ・ 実績及び整備事業による設備・機器・人員の拡充を踏まえて策定しており、過大な目標数値ではない。
 - ・ 医師については、計画値を達成するための体制がほぼ整っている。しかし、看護師数が不足しており、人材確保が必要である。
 - ・ 京北病院は、非常勤医師を含む医師数は足りているが、常勤医師の確保が課題である。
- 財務内容の改善の「人材の確保・育成や外部の専門的知見等の活用による経営機能の強化」とは具体的にはどのようなことか。
 - ・ 外部の知見については、すでに取組を進めており、PFI事業のSPCから、毎月の稼働状況や収支分析等の報告、改善の提言を受けている。今後より積極的に活用していく。
 - ・ 病院経営に携わる事務職員の人材育成及び確保が課題である。

3 報告

(1) 平成26年度上半期実績について

- 市立病院について、営業収益が伸び、材料費が減少しているが、理由は何か。
 - ・ 高額材料を使用する整形外科、眼科等の一部診療科の手術数が減少した。
 - ・ 在庫管理が改善され、過剰在庫を抱えなくなった。
- 材料費について、次期目標達成のための方策はあるか。
 - ・ 医薬品は、後発医薬品の使用率向上に取り組む。
 - ・ 価格交渉、使用材料の集約化等SPCの専門的ノウハウを生かした調達業務の運営や、病院としての材料や医薬品の適切な選択を行う。
- ご意見に占める感謝の割合が26年度上半期33%だが、どう評価しているか。
 - ・ ご意見箱への感謝割合は増加を続けており、他病院と比較して高い割合である。
 - ・ 満足度調査では、満足及びやや満足を合わせて90%以上である。
- 看護専門外来とは何か。
 - ・ 糖尿病患者を対象としたフットケア外来等は以前から外来で実施していたが、場所を一元化した。
 - ・ がん患者に対しては、がん看護専門看護師によるがん看護外来や乳がん看護外来を設置している。
 - ・ 腹膜透析外来、造血幹細胞移植後フォローアップ外来、ストーマ外来等も行っている。
 - ・ 技術的なケアだけでなく、精神的なケアも対応している。

(2) 経営状況月次（10月分）について

4 閉会